

第9回（平成30年度第4回）学校運営協議会議事録

神奈川県立市ケ尾高等学校

日 時：平成31年1月19日（土）15時～17時

場 所：神奈川県立市ケ尾高等学校 中央棟3階会議室

出席者（敬称略）

【委員】

- 倉岡 正高（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所研究員）
- 中村 浩樹（本校 PTA 会長）
- 鈴木 秀幸（地域住民）
- 福田 晴好（翔凜高等学校 特別講師）
- 仁井田尊史（横浜市資源循環局青葉事務所 所長）
- 田中 多恵（NPO 法人ETIC 横浜ブランチャーマネージャー）
- 坂村 暁（横浜市立市ケ尾中学校 校長）
- 増渕 広美（本校 校長）

（欠席者）

- 田口 亮（東京都市大学知識工学部 教授）
- 内川 隆（本校 同窓会長）

【事務局】

- 奥津 賢一（本校 副校長）
- 寺澤 真治（同 教頭）
- 檜垣 桜子（同 事務長）
- 黒柳 幸子（同 地域連携・広報グループリーダー）
- 熊谷 ますみ（同 学校運営協議会委員担当）
- 大久保 直利（同 学校運営協議会委員担当）

I 議 事（司会 副校長）

出席者の確認と議事成立の人数確認。傍聴者はなし。資料確認。

1 開会の言葉（副校長）

2 会長挨拶 (倉岡会長)

今年もよろしくお願ひ申し上げます。本日は、本会議に先立って開催された各部会から報告がある。

人のつながりと健康寿命について研究がなされ、その関連性が認められている。ここ青葉区は、人のつながりが薄い傾向にある。ユースプロジェクトは、これを解消し、しかも多世代でつながるきっかけとなる。

協議事項として「総合的な探究の時間」と地域との関りについて取り上げる。ご意見をいただき、有意義な会議としたい。

3 校長挨拶

新聞報道のとおり、公立学校抜本的改革、特に普通科改革が行われる。

南棟のトイレ改修工事が終わった。床の色等は生徒からアンケートをとって決めたもの。全体としてシックな色合いを好む生徒が多い。

中里学園跡地に仮称「横浜北部方面特別支援学校」が設置される予定だが、その準備室が職員室向かいの理科Ⅰ準備室の半分のスペースを使って置かれる(平成31年4月～10月)ため、3月に工事が入る。

本日も熟議が進むよう、お願いしたい。

4 報告事項 ○: 委員 ●: 学校

ア 第2回評価部会報告

今回は、「授業評価」、「学校評価アンケート」いずれも集計途中ということで、一部の資料について考察した。「授業評価」については、第2回の評価4の割合が、第1回に比べると、全体的にマイナスになっている教科がみられる。2月に各教科で分析を行うとのことだが、原因や改善策を明らかにする必要がある。また、「担当教諭によってもかなり評価に差があるのではないか」、「各教科ごとに評価4の割合が最も高い設問項目に注視しているが、むしろ、肯定意見が30%以下の項目に注視するべき。」などの意見が出た。結果をふまえて授業改善や課題解決に取り組むとともに、担当教師による評価の差がわかる結果を次年度は提示できるようにする必要がある。

「学校評価アンケート」の作成にあたっては、評価部会委員も参加して、よりよいものを作成した。学校運営協議会の残り1回が3月の終わりであるため、昨年度はあまり議論する余地がなかった。今年は資料が作成出来次第、メール等で事前に委員に提示してもらうこととした。

イ 第2回地域協働部会報告

10月の地域貢献活動は、天気もよく生徒たちもしっかり清掃活動をしたようだ。地域貢献活動のあり方について、情報交換や提案を行った。

このあとの協議でも申し上げますが、現在行っている特別教育プログラムの「市ヶ尾ユース

プロジェクト」、「国際理解勉強会」、「食ラボ」は、まさに探究活動であるため、「総合的な探究の時間」における探究活動の礎になりうる。地域協働をうまく組み込むことができないかについて、いろいろな意見が出された。

ウ 特別教育プログラム実施報告

(ア) 市ケ尾ユースプロジェクト

昨年、愛媛県で開催された「第11回地域教育実践交流集会」に本校生徒が2名参加して「市ケ尾ユースプロジェクト」の取組を発表したところ、たいへん好評を得たので、今年も参加依頼があり、校長が自ら生徒2名を引率し、1名が生徒会の概要、もう1名が「市ケ尾ユースプロジェクト」の発表を行った。

(イ) 国際理解勉強会（グローバルリーダーシップ講座）

13回中12回を無事に終えた。生徒の参加数が減っているものの、内容は充実してきた。次回で完結するので、3月の学校運営協議会にてまとめを報告する。

(ウ) 食ラボ・市ケ尾高校

地域の皆さんのサポートで、充実した活動となった。「白菜丸ごと使い切りレシピ」をテーマとし、様々な調理を行った。生徒にとっては素晴らしい経験となった。

エ その他の協働・連携事業について

11月25日の青葉区民マラソンで、PTAおやじの会メンバーが6人参加し、市ケ尾ユースプロジェクトも横断幕を新規に作製してコース脇に掲げ、声援を送った。

県知事提案の「共生社会の実現」をめざした取組の一環である「みんなあつまれ」テーマソングを歌っている元キマグレンのクレイ勇樹氏が、PV撮影のため本校でライブを行い、一般生徒やダンス部が参加した。県共生社会推進課で動画編集後、YouTubeにアップされる予定。

昨年度に引き続き、今年も華道部が青葉区賀詞交歓会で作品を披露した。

本日、ベネッセによるバトン部の取材があり、部員たちの写真が進研ゼミ高校講座「My Vision」の表紙に掲載される予定。

3月には平日、休日の2回、ペアレントアップ講演会を予定している。

※ 資料一部訂正：「PTA、自転車商協同組合による生徒自転車の点検・修理（生徒指導G）」は、1月ではなく11月に実施。

5 協議事項

ア 「総合的な探究の時間」について

各部会でも取り上げたが、平成31年度より週1回、「総合的な探究の時間」に取り組んで

いく。35週の前定だが、実際は25回位になるのではないか。この探究活動は、教科横断的な部分もあり、新たな課題解決をしてアウトプットしなければならない。アウトプットの方法は、発表だったり、レポートだったりになる。年間指導計画に沿ったテキストの作成を前定している。委員の方でこのようなことを仕事で実践している心強い方もいるので、ぜひ協力してもらいたい。

- 評価はどうなるのか。
- 記述的評価となる。
- 教育課程の中に組み込まれているので、今までは、部活動があつて市ケ尾ユースプロジェクトなどに参加できなかった生徒も、探究活動を経験することができる。
- 中学校でも同様の活動を行っている。国連サミットで採択されたSDGsなども扱っている。高校で取り組むことで経験がもっと濃くなり、社会に出て進路を決める時にその経験を生かせるのでは。
- 市ケ尾ユースプロジェクトや国際理解勉強会の内容が探究のテーマの1つになるのではと考へている。これまで実践してきた特別教育プログラムの積み上げが、「総合的な探究の時間」に役立つ。指導するのは担任だけではなく、副担任も担当して、20名で1つの学年を指導していく。
- 探究活動については、大学での取組が多数あるので、参考になるとよい。
- 県高校教育課が作成した、別紙「総合的な探究の時間」11ページに諸課題の例があり、参考になるが、最終的には学校目標に繋がらなければならない。この例では大きく分けて4つの諸課題に分けている。
- スタッフはどうするのか。外部メンターをカテゴリーごとにつけるとよい。
- 今の子どもたちは失敗を恐れる。最初は失敗させることを重視する。失敗してもいい、あるいは、どの程度失敗してもいいのかを教えることが大切だ。
したがって、グループのメンターになる人は、失敗経験のある人がよい。探究の過程の中で失敗したとしても、アウトプットの段階で成功することによって、指導者や地域の方に褒めてもらうのがよい。アウトプットを青葉公会堂で行うのはどうか。設計図をしっかりと作って地域の方々にも参加してもらうとよい。
- 食ラボはフードロスとつながっている。可燃ごみの4割はフードロス。横浜市が掲げて

いるごみのスリム化に貢献するのではないか。地域の環境を守り、ごみも減ることで市民の負担金も減る。SDGsにも合致している。

- テーマが多すぎてもどうなのか。
- 小学校の「壁新聞」的なものにならないよう、焦点を絞って仮説をたて、情報の収集と分析を行ったほうがよい。ネットでは得られない情報を、自分の足で稼ぐ機会が必要だ。
- 教師の負担感はどうか。「さらに負担が増える」と思う教師もいるはずだ。教師のモチベーションが低ければ、生徒も上がってこない。生徒にも教師にも「面白い、やってみよう」という動機づけが必要。いかに教える側のハートに火をつけることができるか。
- クラスを解体してグループを編制していく。1人の教師が担当するのは平均20人位で、例えば、1グループ5人ずつだと、4グループを担当することになる。(5人×4グループ=20人)
- 外部メンターを依頼することはできないか。それぞれのカテゴリーのプロの方をお願いする。予算的側面もあるだろうが。
- 「総合的な探究の時間」に特化した予算配当は今のところ予定されていない。
- 1学期にクラスを解体してグループを編制するのは、慌ただしい中、かなり負担になるのではないか。しかも入学したてで教師も子どもも誰が誰だかよく分からない。
1学期はクラス内で編制したらどうか。最初は体育館に生徒を集めて、オリエンテーションをするとよい。探究活動の前半で人の話を沢山聞かせるとよい。
- 多くの助言や提案をいただいた。3月の学校運営協議会では、4月からの取組についてすべて決定した状態でなければ間に合わないのでは、この間、委員の方に進捗をお伝えし、さらにご意見や助言をいただきながら内容を詰めていきたい。

6 その他

特になし。

7 事務連絡

次回は平成31年3月23日(土)に開催する。

以上